

第二期武蔵野市スポーツ推進計画(仮称)中間のまとめ

2. これまでの取組の実績と評価 参考資料
 (3)オリパラ開催、RWC開催等を見据えた教育委員会の取組

◎実施・実施後継続中
 ○事業の一部を実施・実施後継続中
 ★完了(実施後継続を伴わないもの)
 ■検討・研究中
 ▲未着手

| 令和3年4月7日付 照会結果 | | | | |
|-------------------------------------|---|--|------|---|
| 事業名 | 所管課 | 平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度) | 進捗状況 | 実績の評価と今後の取組 |
| 1 スポーツの振興・啓発 | | | | |
| (1) 体験の充実 | | | | |
| ①オリンピック・パラリンピック種目等の体験イベントの開催 | | | | |
| 1 | Sports for All イベントによるスポーツの振興・啓発 | 企画調整課 老若男女・障害のある無しに関わらず、誰もがスポーツを楽しみ、スポーツによって成長できるなど、スポーツの素晴らしさを享受できる環境づくりを目的として、「Sports for All」という冠を付けたイベントを実施。障害者のスポーツ環境を整えていくとともに、誰もが一緒にスポーツに親しめるまちづくりを進めていくため、競技はパラリンピック種目の周知・体験が可能なものを中心に選定した。また、一流のアスリートと触れ合える貴重な体験となるよう、毎回ゲストに日本代表選手等のアスリートを招いている。新型コロナウイルス感染症により体験イベントの開催ができなかった際には動画配信を行った(Sports for All 水球)。 | ◎ | 身近な場所で一流アスリートのプレーを体感し、オリ・パラの両競技を一度に体験できるイベントとして定着した。今後も継続して子どもたちを中心に良い体験の機会を提供していきたい。 |
| 2 | ポッチャを知ろう～リオパラリンピックメダリストによる講演と実技体験 | 武蔵野生涯学習振興事業団 平成28年度、リオパラリンピック銀メダリスト杉村英孝氏とコーチ村上光輝氏による講演と実技体験を行うことで、障害者スポーツのポッチャに親しむイベントを開催した。 | ◎ | パラリンピック競技であるポッチャの魅力とパラリンピアンのアスリートとしての凄さを伝えることができた。東京2020大会後も、「Sports for All」イベントを通して障がい者スポーツの魅力伝えていく。 |
| ②ファミリースポーツフェア、スポーツフェスティバルを活用した体験の充実 | | | | |
| 1 | ファミリースポーツフェア | 生涯学習スポーツ課 毎年4月29日の昭和の日にスポーツ推進委員主催で実施しているスポーツイベント。幼児から高齢者まで家族ぐるみで、ニュースポーツやレクリエーションスポーツを気軽に楽しむことのできる機会を提供し、スポーツの生活化や健康づくりを推進し、生涯スポーツの振興を図っている。 | ◎ | 幼児から高齢者までが気軽に様々なスポーツを楽しむことができるイベントであり、スポーツの生活化や健康づくり、コミュニケーションの創出に寄与することができるため、継続して実施していく。 |
| 2 | 市民スポーツフェスティバル | 生涯学習スポーツ課 毎年10月の体育の日に市、市教育委員会、体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団が主催し開催しているスポーツイベント。簡単なレクリエーションを通じて、スポーツの日常化をはかる。同時に体力測定を実施。 | ◎ | 体育協会加盟団体により運営されており、役員等の負担になっている面はあるが、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、様々なスポーツに親しむことができている。 |
| 3 | シルバースポーツ大会 | 高齢者支援課 高齢者のスポーツ活動普及と健康増進交流を目的として、市と老人クラブ連合会の共催により、毎年10月に実施している。 | ◎ | コロナ禍においては実施の可否の判断に苦慮しているが、フレイル予防に資する本事業の役割は大きいと感じている。感染症予防に努めながら、競技内容の見直しを含め工夫をして実施していく。 |
| (2) 観るスポーツの充実・大会誘致 | | | | |
| ①武蔵野市を拠点として活動するチームを観る・応援する機運の醸成 | | | | |
| 1 | 東京武蔵野ユナイテッドFC(旧名称東京武蔵野シティFC)の活動への支援 | 生涯学習スポーツ課 JFLに所属している東京武蔵野ユナイテッドFC(旧名称:東京武蔵野シティFC)のチームの活動に対して武蔵野市および教育委員会が支援するとともに、同チームから市事業への協力を得ることで、市スポーツ振興計画の施策にある「生涯を通じてスポーツを楽しむ機会の創出・観るスポーツ・アスリートにふれる機会の充実」をさらに図っていくことを目的として、相互協力に関する協定を締結している。市からはホームゲームの開催協力や、広報面の支援を行っており、チームからは市・事業団主催事業に対して協力を得ている。 | ◎ | 子ども達がJFLトップチームの試合を観戦する機会の提供につながっていることと、市主催事業等への協力によるスポーツを楽しむ機会の提供が図られており、今後も互いに協力していく。 |
| 2 | ゆかりある選手の応援 | 企画調整課 武蔵野市Sports for All 情報 Monthly News において、「当市ゆかりの選手情報」を掲載し、各種大会へ出場した結果などの情報提供を行った。ジュニア特派員がゆかりある選手を取材し、広報誌「むさしのジュニア2020通信」に記事を掲載した。Facebook、InstagramなどのSNSにより、ゆかりある選手の活躍について情報提供を行った。 | ◎ | 市ゆかりの選手の情報をFacebookやInstagramへUPLした他、「みんなが笑顔になる」岩淵真奈選手応援プロジェクトを行った。市ゆかりの選手を応援する広報ツールデザインのデザイナーを募集する。 |
| ②魅力ある大会等の招致と市民への広報 | | | | |
| 1 | SNS等を活用したオリパラ関連情報の発信、ホームページ内大会関連情報を集約し発信 | 企画調整課 市ホームページに「東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019に向けて」特設ページを設置し、市の取組み・イベント等および他団体の情報などを発信。トップページにバナーを掲載。専用フェイスブックページおよびインスタグラムを開設。SNS上でハッシュタグを使った投稿を促すキャンペーンなどを実施した。 | ◎ | HP、Facebook、Instagramでの投稿を引き続き行っていく。 |
| 2 | リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会出場選手紹介、PV実施 | 企画調整課 平成28年度(リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピック競技大会が実施された2016年)に、武蔵野総合体育館にて、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会の出場選手や結果等の情報提供と、男子サッカーのパブリックビューイング(PV)を開催した。 | ★ | リオデジャネイロオリンピックでのPVの経験が、ラグビーワールドカップ2019のイベントやPVの取組みに繋がった。 |
| 3 | フラッグツアー等冬季オリンピック・パラリンピックの取組み | 企画調整課 平成28年度(平昌で冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が実施された2017年)に実施した。吉祥寺駅北口ロータリーにて東京2020大会組織委員会主催のフラッグツアーを実施し、ゲストに大林素子氏、加藤美優選手、坂本梨歩選手をお迎えし、東京2020大会のフラッグを市民に披露するとともに、大会へ向けた機運醸成を行った。武蔵野市出身で平昌パラリンピックに出場する安中幹雄選手(パラアイスホッケー日本代表)の壮行式を市役所に実施した。平昌オリンピック・パラリンピックのライブサイトが井の頭公園西園に設置され、一日約2万人が訪れた。 | ★ | 東京2020大会に向けた機運の醸成が進んだ。 |
| 4 | ラグビーワールドカップ2019開催関連イベント | 企画調整課 市内においてラグビーワールドカップ2019の開催に向けた機運を醸成するため、数々のイベントを実施した。平成28年度、平成29年度、平成30年度は陸上競技場で「Sports for All ラグビー」を実施した。開催年の令和元年度は吉祥寺駅や武蔵境駅などにおいて大会開催を盛り上げるためのイベントを実施したり、開幕戦の応援イベントや試合のパブリックビューイングを実施した。 | ★ | ラグビーワールドカップ2019やラグビーブームの盛り上がりにより貢献することが出来た。吉祥寺平和通りを封鎖しての「Sports for All 吉祥寺×ラグビー」の実施や、陸上競技場でのPVは盛大な盛り上がりを見せた。スポーツを通して、臨場感や一体感といった喜び感動を共有した。多くのメディアに取り上げられ、武蔵野市や武蔵野総合体育館・陸上競技場の知名度向上にもつながった。 |
| ③国際大会出場選手やチームに触れる機会の創出 | | | | |
| 1 | 東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019に向けた事前キャンプ地、公認キャンプ地の受入れ | 企画調整課 ラグビーワールドカップ2019においてロシアの公認チームキャンプ地として施設整備などの準備を進め、代表チームを受け入れた。公認チームキャンプ最終日には、ラグビースクールの子どもたちなど約50名との交流が実現し、練習の見学や記念品贈呈、集合写真撮影などを行った。ルーマニアオリンピック委員会・パラリンピック委員会および各競技団体、その他いくつかの国からの視察を受入れ、ルーマニアおよびエルサルバドルのバラスリート強化合宿を受入れた。 | ★ | 世界的スポーツイベントの代表選手団を受け入れる経験は市、事業団としても初であったが、公認チームキャンプ地としての役目を果たすことができた。選手たちと子どもたちの交流により、国際理解が進んだ。世界のラグビー選手と会うことができたことは、子どもたちにとってかけがえのない思い出であり経験であった。 |
| 2 | 他国スポーツ選手との交流 | 企画調整課 ルーマニアがラグビー日本代表とのテストマッチを行うのに合わせ、ルーマニアの応援と熊本地震の復興支援を目的に、熊本に市民応援団を派遣。ルーマニアの視覚障がい者柔道の選手が出場した大会の応援と市施設の紹介を行った。また、「柔道グランドスラム東京2017」に出場するルーマニア選手を応援するため、応援ツアーを実施。大会を終えたルーマニア選手の市内観光案内、及び施設の紹介を行い、「Sports for All 柔道」を実施して子ども達との交流を実現した。また、ルーマニアおよびエルサルバドルからバラスリートの強化合宿を受入れ、学校への訪問や交流イベントなどを実施した。 | ★ | ルーマニアパラ選手団、エルサルバドル選手団の合宿を手配し、技術向上に貢献することが出来た。両国選手団は学校での授業にも参加し、子どもたちにとっては国際交流と障害者理解が進んだ。 |
| 3 | Sports for All イベントによるスポーツの振興・啓 | 企画調整課 | 【再掲】 | 【再掲】 |

2. これまでの取組の実績と評価 参考資料
 (3)オリパラ開催、RWC開催等を見据えた教育委員会の取組

◎実施・実施後継続中
 ○事業の一部を実施・実施後継続中
 ★完了(実施後継続を伴わないもの)
 ■検討・研究中
 ▲未着手

| 令和3年4月7日付 照会結果 | | | | |
|--|---|------------------------------------|---|---|
| 事業名 | 所管課 | 平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度) | 進捗 状況 | 実績の評価と今後の取組 |
| 【第5章】オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビーワールドカップ日本開催等を見据えた教育委員会の取組 | | | | |
| (3) 大会出場へ挑戦する市民等への支援 | | | | |
| ①市民が市民を応援するプログラムの企画 | | | | |
| 1 | ゆかりある選手の応援 | 企画調整課 | 【再掲】 | 【再掲】 |
| (4) スポーツ教室の充実と体育協会等との連携 | | | | |
| ①(公財) 武蔵野生涯学習振興事業団によるスポーツ教室の充実 | | | | |
| 1 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催の各種スポーツ教室、ワンデースポーツ等の実施 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催事業として、会員制のスポーツ教室(大人向け、親子向け、小学生向け、幼児向け、障がい者向け)、ワンデーレッスン、野外活動プログラム(自然観察、アウトドアスポーツ、キャンプ、登山・ハイキング)を開催している。 | ◎ 子どもから大人まで、障がいの有無に関わらず参加できる多種多様な事業を実施した。新型コロナウイルス感染症をはじめ、刻々と変わる社会環境にも柔軟に対応し、各事業の質的向上を図っていく。 |
| 2 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催事業 親子野あそびクラブ、ファミリーキャンプ、はじめてのオートキャンプ等 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 親子キャンプや親子野あそびの体験事業の中で、川辺あそび、牧場体験、磯遊びなど様々なプログラムを実施。 | ◎ 内外のさまざまな団体に協力いただき、毎年さまざまな自然体験を提供できている。 |
| 3 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催 登山、ハイキング、キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツ等 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | レベル別に実施する登山教室は人気があり、多くの市民が参加した。また登山スクールや初心者登山教室も実施し安全に登山ができる技術を学ぶ機会を提供した。キャンプ用品の貸出しなどPRし、アウトドアを気軽に体験できる機会を提供した。 | ◎ 初心者登山教室は武蔵野市山岳連盟の協力で年間通したプログラムを提供している。 |
| 4 | 武蔵野生涯学習振興事業団による動画配信 総合体育館公式YouTubeチャンネル「おうちで運動」 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 新型コロナウイルス感染症対策として、総合体育館公式YouTubeチャンネル「おうちで運動」を開設し、幅広い世代を対象とし、初級・初心者向けの簡単な運動動画を紹介している。大人向けのストレッチ、子ども向けのかけっこ、幼児向けの遊びの動画など。 | ◎ コロナ禍において運動不足の解消やストレス解消、リフレッシュを目的とした動画を提供することができた。今後は、運動を紹介するだけでなく、教室やイベントの紹介などにも幅広く活用していく。 |
| 5 | 武蔵野生涯学習振興事業団による動画配信 野外活動センター公式YouTubeチャンネル「おうちでやかつ」 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 新型コロナウイルス感染症対策として、野外活動センター公式YouTubeチャンネル「おうちでやかつ」を開設し、身近な虫や動物たちを専門の先生が解説する自然観察編と、キャンプなどの野外活動で活用できる知識や道具の使い方を紹介するキャンプ編などの動画を配信している。 | ◎ 野外活動への関心を持ち続けてもらい、個人でできることを実践してもらえるよう、今後も配信を続けていく。 |
| ②スポーツ推進委員による手軽にできるスポーツの紹介等きっかけづくりの提供 | | | | |
| 1 | スポーツ推進委員によるスポーツ活動へのサポート | 生涯学習スポーツ課 | 市民のスポーツ推進や障害者スポーツの普及のため、地域の交流会、PTA行事、クラス会、福祉施設のレクリエーションなどに対して、スポーツ推進委員が企画・運営・支援・スポーツ指導などを行った。年に1度ファミリースポーツフェアを企画・開催しているほか、Sports for All、ロードレース(駅伝・マラソン大会)、サンタさんと親子運動会など市・事業団主催事業への協力も行っている。障がい者スポーツ指導員(初級・中級)の資格取得や、ポッチャサポーター講習会の受講など、障害者スポーツの普及も目指している。 | ◎ 障害のあるなしに関わらず、子どもから高齢者まで、多くの方々のスポーツ・レクリエーション活動を支えてきた。今後も、スポーツのきっかけづくりや障害者スポーツの普及・啓発のためのキーパーソンとして活躍できるよう連携していく。 |
| 2 | スポーツ推進だよりの発行 | 生涯学習スポーツ課 | 年に1度、スポーツ推進委員だよりを発行している。推進委員が編集し、おすすめのスポート、ウォーキング・ランニングコース、パラ競技、スポーツイベントの紹介などを掲載した。 | ◎ 地域に根差して活動するスポーツ推進委員の認知度向上や、スポーツや運動に興味を持つきっかけとなり、毎年発行していく。 |
| 3 | 「おうちで運動あそび」の発行 | 生涯学習スポーツ課 | 新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年8月、武蔵野市スポーツ推進委員協議会有志が、家にあるもので小さい子どもでも高齢者でも簡単にできる運動遊びを紹介するチラシを作成した(チラシ配布、市ホームページ掲載)。内容: テーブル卓球、風船シッティングバレーボール、靴下ポッチャ、折り紙風船など。 | ★ 社会情勢にあわせて、可能なことに取り組んでいく。 |
| ③体育協会加盟団体による活動の支援 | | | | |
| 1 | 体育協会加盟団体による初心者向けスポーツ教室等の開催 | 体育協会 | 体育協会加盟団体により様々な種目において初心者向けの教室が開催されており、市報や体育協会ホームページで周知をしている。 | ◎ きっかけづくりや競技人口の増につながっているため、これからも続けていく。 |
| (5) 子育て世代へのスポーツ振興 | | | | |
| ①スポーツ施設利用時の一時保育支援の充実 | | | | |
| 1 | 総合体育館における一時保育 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | スポーツ教室、ワンデーレッスン、プール、トレーニング室などの体育施設利用者を対象に、一時保育サービスを実施している(事前予約制、有料)。 | ◎ 子育てしながらでもスポーツに親しんでもらえるよう教室参加者を中心に一時保育サービスを提供することができた。今後も継続して実施していく。 |
| 2 | 子育て支援スポーツ教室 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 日頃、子育てに追われてスポーツを行う機会が少ない母親を対象に、だれでも気軽にできるスポーツを楽しみながら、健康増進と参加者相互の交流の場を創出している。内容はエアロ&ピラティス、シェイプウォーキング、ヨガなど。参加しやすいようコミュニティセンターなどを会場としている。託児付。 | ◎ 子育てしながらでもスポーツに親しんでもらえる教室を実施することができた。今後も継続して実施していく。 |
| ②大会・イベント等に親子で参加・観戦する機会の充実 | | | | |
| 1 | サンタさんと親子運動会 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催として、親子で参加し、サンタさんとトナカイさんと一緒にゲームや体操をするイベント。毎年12月に開催している。 | ◎ 体育館のクリスマスイベントとして、毎年趣向を凝らしたプログラムを提供し、身体を動かすことの楽しさを伝えることができた。体育館の定番イベントとして継続して実施していく。 |
| 2 | スケートボード体験イベント | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催として、ストリートスポーツ広場においてスケートボードの体験イベントを開催。親子で参加が可能な親子クラスを設定している。 | ◎ オリピック競技でもあるスケートボードのイベントを開催することで、機運醸成を図ることができた。引き続き、興味関心の高い種目のイベントを検討していく。 |
| ③ファミリースポーツフェア等による親子のふれあいの場の提供 | | | | |
| 1 | ファミリースポーツフェア | 生涯学習スポーツ課 | 【再掲】 | 【再掲】 |

2. これまでの取組の実績と評価 参考資料
 (3)オリパラ開催、RWC開催等を見据えた教育委員会の取組

◎実施・実施後継続中
 ○事業の一部を実施・実施後継続中
 ★完了(実施後継続を伴わないもの)
 ■検討・研究中
 ▲未着手

| 令和3年4月7日付 照会結果 | | | | | | |
|--|--|------------------------------------|--|-------------|---|----|
| 事業名 | 所管課 | 平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度) | 進捗 状況 | 実績の評価と今後の取組 | | |
| 【第5章】オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビーワールドカップ日本開催等を見据えた教育委員会の取組 | | | | | | |
| 2 | 市民スポーツフェスティバル | 生涯学習スポーツ課 | 【再掲】 | 【再掲】 | 30 | |
| 3 | サンタさんと親子運動会 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 【再掲】 | 【再掲】 | 31 | |
| 4 | スケートボード体験イベント | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 【再掲】 | 【再掲】 | 32 | |
| 5 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催事業 親子向けスポーツ教室 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催事業として、親子スポーツ教室(ボール遊び、よちよち体操、産後ヨーガ、体操、テニス、インラインスケートなど)を開催した。 | ◎ | 生後3か月から小学生に上がるまでの子を対象にした親子向け教室を実施することができた。また、単に親子で身体を動かすだけでなく、日常的に親子で遊んでもらえるよう親に運動の重要性やその方法を伝えることができた。引き続き実施していく。 | 33 |
| ④(公財)武蔵野生涯学習振興事業団による自然体験教室等の充実 | | | | | | |
| 1 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催事業 親子野あそびクラブ、ファミリーキャンプ、はじめのオートキャンプ等 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 【再掲】 | 【再掲】 | 34 | |
| 2 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催 登山、ハイキング、キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツ等 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 【再掲】 | 【再掲】 | 35 | |
| (6) ボランティア活動への機運醸成 | | | | | | |
| ①ボランティア活動への機運醸成 | | | | | | |
| 1 | スポーツボランティア「HANDS」 | 企画調整課 | 市スポーツイベントのサポートや、障がい者スポーツを支えていくスポーツボランティア「HANDS」を平成30年7月に発足。単なる運営サポートではなく、来場者を楽しませたり、賑やかさを演出したり、ホスピタリティを発揮することに従事してもらい、イベント等の付加価値を生み出している。「Hearty Assistant Network for Doing Sports」の略。 | ◎ | オリパラへ向けたスポーツイベントや障害者スポーツを支える人材として活躍している。今後も引き続きイベントへ付加価値を与えるスタッフとして運営していく。 | 36 |
| 2 | ジュニア特派員 | 企画調整課 | 市内の小学生・中学生・高校生が「ジュニア特派員」として、市スポーツイベント・大会などを取材、オリンピック・パラリンピック等に関することを調べ、広報物を作成。ゲストへの取材、競技体験、観戦等を通じて、特派員自身の体験・学びの場とした。広報誌「むさしのジュニア2020通信」を発行。 | ◎ | 今後も市ゆかりの選手を応援する内容等で発行予定。 | 37 |
| 3 | 外国人おもてなし講座 | 企画調整課 | 東京2020オリンピック・パラリンピック期間中に本市を訪れる選手たちや、大会観戦に訪れる外国人の方々など、街中で困っている外国人を見かけた際などに、簡単な英語や、やさしい日本語、翻訳アプリを利用して声をかけをする心理的ハードルを下げて、ちょっとした手助けをする人が、東京2020大会までの間に市内に増えることを促す講座を実施した。 | ◎ | スポーツボランティアHANDSにも教材を配布した。今後もボランティアに向けて実施予定。 | 38 |
| 4 | 魅力発信しおり | 企画調整課 | 実行委員会所属団体や市内活動団体に絵を描き、「来街者歓迎しおり」を作成した。裏面には、魅力公募写真受賞作品や魅力発信動画へのリンクなどを紹介を掲載。ラグビーワールドカップ2019および東京2020大会、市内で開催されるバラスポーツの大会開催時などにおいて配布した。海外や日本各地から来る選手たちや観戦者をもてなす試みとともに、子ども達を中心とした市民が選手や来街者と直接関わる機会を提供した。 | ◎ | 子どもたちにとって得難い経験になったという評価をいただいております。令和3年度の東京2020大会時においても、PV会場などで配布することとして作成する。 | 39 |
| 5 | ボランティアの樹～わたしのチャレンジ～ | 企画調整課 | 学校の生徒等が葉の無い樹の絵を描いたパネルを作成。そのパネルを市のお祭りなどで展示し、来場者に自分で行う・行いたい個人的なボランティア活動や2020年に向けたチャレンジなどについて、アイデア・決意・報告などを葉っぱ型の短冊に書いて投書してもらおう。その短冊を木の絵に貼付し、葉の茂った樹「ボランティアの樹～わたしのチャレンジ～」とした。 | ◎ | 聖徳学園中学・高等学校、都立武蔵高校、亜細亜大学、武蔵野市立第一中学校、成蹊大学の美術部に作成を依頼し、展示を行った。 | 40 |
| 6 | 市民ボランティアを育成しホストタウンの啓発を推進 | 多文化共生・交流課 | 東京2020大会におけるホストタウン支援を図るために、武蔵野市国際交流協会(MIA)において、ルーマニア語会話教室を文化紹介の講座などと併せて実施し、語学力の育成と効果的な啓発を図った。また、ホストタウンサポーターを募り、ホストタウン事業で実施するイベントにボランティアとして従事していただいた。 | ◎ | 市民団体主催のルーマニア語学教室の会員数が増えた。また、成蹊大学ルーマニア交流プロジェクト学生スタッフがルーマニアの伝統的な楽器であるバンフルートを学ぶ活動に至るなど、東京2020大会後のレガシーとなる事業となった。サポーターの存続については、当事者の意見を聞きながら検討する。 | 41 |
| 2 学校教育との連携 | | | | | | |
| (1) 運動習慣の定着と体力向上を目的とした教育活動の充実 | | | | | | |
| ①タグラグビー導入・拡充など体育の時間を活用した取組の充実 | | | | | | |
| 1 | 小学校へのタグラグビー授業導入の支援 | 生涯学習スポーツ課 | 平成28年度から、子どもたちの体力向上、健康増進に向けて、市立小学校を対象にタグラグビー導入支援として、①教員向けタグラグビー指導者講習会、②学芸大による初回授業支援、③横河武蔵野アトラスターズ、アルテミ・スターズおよび成蹊大学ラグビー部による授業支援を実施。 | ◎ | タグラグビーは体育が苦手な児童でも楽しくプレーができ、運動量も確保できる。市内ラグビーチームの選手との交流は特別な体験でもある。継続して実施していく。 | 42 |
| 2 | 小中学校へのバレーボール等授業支援 | 生涯学習スポーツ課 | 子どもたちの運動習慣の定着化と体力向上の機会創出のため、平成29年度から市立小中学校を対象にオリンピック櫻井由香氏による体育授業支援及び講話を実施。 | ◎ | オリンピックによる講話や指導が児童・生徒、教諭にとって大変貴重なものであり、心に響くものであった。物事に取り組むことの素晴らしさを伝えることができる事業であり、継続して実施していく。 | 43 |
| ②市内中学校総合体育大会の充実 | | | | | | |
| 1 | 市内中学校総合体育大会の開催と充実 | 指導課 | 市内中学校総合体育大会では、平成27年度から令和元年度の5年間で延べ13,388名の中学生が参加し、中学生の体力向上やスポーツ啓発に貢献できた。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から市内中学校総合体育大会を中止とした。 | ◎ | 中学生の体力向上やスポーツ啓発に貢献できるよう、引き続き市内中学校総合体育大会を開催していく。 | 44 |

◎実施・実施後継続中
 ○事業の一部を実施・実施後継続中
 ★完了(実施後継続を伴わないもの)
 ■検討・研究中
 ▲未着手

2. これまでの取組の実績と評価 参考資料
 (3)オリパラ開催、RWC開催等を見据えた教育委員会の取組

| | | | | 令和3年4月7日付 照会結果 | |
|---|-------------------------|-----------|---|----------------|---|
| 【第5章】オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビーワールドカップ日本開催等を見据えた教育委員会の取組 | | 所管課 | 平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度) | 進捗状況 | 実績の評価と今後の取組 |
| 事業名 | | | | | |
| ③オリンピック・パラリンピック教育推進校（H26～H27）での取組を度合いとした各校の取組の支援 | | | | | |
| 1 | オリンピック・パラリンピック教育の推進 | 指導課 | 市内全小・中学校でオリンピック・パラリンピック教育の全体計画及び、全学年の各教科等を通じた年間35時間の年間指導計画を作成し、実施した。 平成28年度、「むさしの教育フォーラム」のテーマを「オリンピック・パラリンピック教育の推進」とし、各校の取組を報告し、「オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア活動」をテーマに講演いただいた。(参加者:101名) 平成29年度、「夢・未来」プロジェクトとして、第五小学校、千川小学校、第一中学校にアスリートが派遣。小学校全学級による大会マスコット投票を実施。 平成30年度、「夢・未来」プロジェクトとして、第三小学校、大野田小学校、境南小学校、井之頭小学校にアスリートが派遣。 平成31年度、「夢・未来」プロジェクトとして、第四小学校にアスリートが派遣。 令和2年度、「夢・未来」プロジェクトとして、本宿小学校、第六中学校にアスリートが派遣。 | ★ | 全市立小・中学校が、オリンピック・パラリンピック教育推進校として、各学年35時間ずつ各教科等の年間指導計画に様々な学習や活動を位置付け、障害者理解やボランティアマインド等五つの資質・能力の育成を図ることができた。小・中学校では、各校で行ったオリンピック・パラリンピック教育や大会観戦、学校教育支援(タグラグビー、バレーボール、パラリンピック競技体験)、アスリート派遣などの体験や活動の取組をレガシーとして、今後、スポーツを好きになり、体力・運動能力向上し、障害者理解やボランティアマインド等5つの資質・能力を引き続き育む。 |
| ④体育を専門とする学習指導員の導入校の拡充 | | | | | |
| (2) 障害者スポーツ競技の体験や大会の観戦を通じた障害者理解の促進 | | | | | |
| ①障害者スポーツを観る・触れる・体験する機会の充実 | | | | | |
| 1 | 市立小中学校パラリンピック教育支援 | 企画調整課 | 市立小中学校において、パラリンピック競技団体や障害者アスリート本人を授業に招き、子ども達が障害者スポーツを体感し、障害者アスリートの言葉を直接聞く機会を設けた。平成30年度に開始。実施種目:シッティングバレーボール、ポッチャ、ブラインドサッカー&ブラインドマラソン | ◎ | パラリンピック競技の体験だけでなく、障害者理解についても学習を深めている。障がい者がどのように工夫してスポーツを楽しんでいるかを学んでいる。オリパラのレガシーとして継続していく。 |
| 2 | ジャパンパラポッチャ競技大会の誘致 | 企画調整課 | 平成29年度、市内における障害者スポーツの関心を高めるため、ポッチャ競技における日本初の国際大会となるジャパンパラポッチャ競技大会を誘致し、武蔵野総合体育館で開催した。広報の支援、実行委員会等関係者による応援の案内、市内小学生生徒によるエスコートキッズの仲介などを行った。 | ★ | その後のポッチャ武蔵野カップ、ポッチャ東京カップ、日本ポッチャ協会との協定締結につながった。 |
| 3 | ポッチャ東京カップの誘致 | 企画調整課 | 市内における障害者スポーツの関心を高めるため、ポッチャ東京カップを誘致し、武蔵野総合体育館で予選会(小学生の部・東日本大学選手権・一般の部)および本選が開催された。会場提供、設営補助、出場チームの推薦や、ボランティアの手配を行った。 | ◎ | ポッチャの日本代表選手が出場する大会を身近な場所で観ることが出来ている。日本代表選手、障がい者、小学生、高齢者が参加するインクルーシブな大会となっている。今後は予選大会を継続して開催していく。 |
| 4 | ポッチャ武蔵野カップの開催 | 企画調整課 | 市内におけるポッチャ競技の普及を目的として、日本ポッチャ協会協力のもと「ポッチャ武蔵野カップ」を開催した。平成30年度の「Sports for All パラ・フェスタ」午後の部として第一回大会を開催し、令和元年度に単独開催で第二回大会を開催した。第一回、第二回大会共に優勝チームが「ポッチャ東京カップ」本大会への出場権を得る形となった。 | ◎ | 市民の中でポッチャ愛好者が増えるきっかけとなった。優勝チームの全国大会(東京カップ)出場権という目標設定もあり、技術向上にもつながっている。 |
| 5 | 東京都市町村ポッチャ大会の開催 | 企画調整課 | 令和元年度に東京都市長会の事業として各市町村の代表チームによる「東京都市町村ポッチャ大会」を企画し、各自治体で予選会を勝ち抜いたチームや推薦チームが29市町から57チームが参加して大会を実施した。 | ◎ | オリパラを契機とした多摩地域のレガシーとして発足し、大会の開催やポッチャ用具の配布を通して競技の普及が進んだ。オリパラ後も各市町村が連携して事業を実施していく。 |
| 6 | 日本シッティングバレーボール選手権大会共催 | 企画調整課 | 市内における障害者スポーツの関心を高めるため、「日本シッティングバレーボール(令和元年度からは『パラバレーボール』)選手権大会」を、(一社)日本パラバレーボール協会と共催。会場提供、設営補助、ボランティアの手配、ジュニア特派員による取材を行った。 | ◎ | シッティングバレーボールの日本代表選手が出場する大会を身近な場所で見ることが出来ている。今後は体験会等の実施についても検討していきたい。 |
| 7 | ユニバーサルスポーツの普及・啓発イベント等開催 | 企画調整課 | 子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめるユニバーサルスポーツのイベントとして教育委員会及びスポーツ推進委員協議会の共催で「ファミリースポーツフェア」を開催。パラリンピック種目であるポッチャほか、様々なユニバーサルスポーツを実施した。また、東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を、平成28年度は桜まつりの一部として開催。シッティングバレーボールおよび車いすバスケットボールの体験とゲストによるトークショーを実施。平成30年度は「ファミリースポーツフェア」にて実施。 | ◎ | パラリンピック競技の紹介や普及を目的に、多くの参加者が集まるイベントの一環として実施してきた。気軽に体験できることでパラリンピックへ向けた機運醸成につながっている。 |
| (3) オリンピック・パラリンピック教育の推進 | | | | | |
| ①オリンピック・パラリンピックに関する学びの機会の充実 | | | | | |
| 1 | オリンピック・パラリンピック教育の推進 | 指導課 | 【再掲】 | | 【再掲】 |
| 2 | 市立小中学校パラリンピック教育支援 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 |
| ②自国文化や他国文化の理解、国際理解の促進 | | | | | |
| 1 | 学校教育と連携した教育・交流プログラムの実施 | 多文化共生・交流課 | 市内全ての市立小中学校で「世界ともだちプロジェクト」の対象国にルーマニアを含め、学習、交流を実施。平成28年度に開始し、毎年各校において計画を立て、実施した。 | ★ | 当初は支援が必要だったが、最終的に学校が直接関係者と調整をしてプロジェクトを推進できるようになった。今後も必要に応じて支援をする。 |
| 2 | ルーマニアとの相互交流(文化・スポーツ) | 多文化共生・交流課 | ルーマニアの視覚障がい者柔道の選手が出場した大会の応援と市施設の紹介を行った。また、「柔道グランドスラム東京2017」に出場するルーマニア選手を応援するため、応援ツアーを実施。大会を終えたルーマニア選手の市内観光案内、及び施設の紹介を行い、「Sports for All 柔道」を実施して子ども達との交流を実現した。パラアスリート招聘募金を活用し、ルーマニアのパラアスリート3名(柔道1名、卓球2名)およびパラリンピック委員会会長・コーチを招へいし、強化合宿実施の支援を行った。また、「ホストタウン交流フェス～Sports for All ルーマニア・パラ」を実施して市民との交流を図る機会を設けた。 | ◎ | 来日した選手団には大好評だった。市民や子どもたちと交流が実現したことで、ルーマニアのパラアスリートが身近な存在となり、パラリンピックへの関心が高まった。ルーマニアパラリンピック委員会およびパラアスリートとの交流を検討する。 |
| ③おもてなしの精神やボランティア精神の醸成 | | | | | |
| 1 | スポーツボランティア「HANDS」 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 |

2. これまでの取組の実績と評価 参考資料
 (3)オリパラ開催、RWC開催等を見据えた教育委員会の取組

◎実施・実施後継続中
 ○事業の一部を実施・実施後継続中
 ★完了(実施後継続を伴わないもの)
 ■検討・研究中
 ▲未着手

| | | | | 令和3年4月7日付 照会結果 | | | |
|---|---|--------------|--|----------------|--|--|----|
| 【第5章】オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビーワールドカップ日本開催等を見据えた教育委員会の取組 | | 所管課 | 平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度) | 進捗状況 | 実績の評価と今後の取組 | | |
| 事業名 | | | | | | | |
| 2 | 外国人おもてなし講座 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 59 |
| 3 | 来街者歓迎しおり | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 60 |
| 4 | ボランティアの樹～わたしのチャレンジ～ | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 61 |
| 5 | 市民ボランティアを育成しホストタウンの啓発を推進 | 多文化共生・交流課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 62 |
| 3生涯学習事業との連携 | | | | | | | |
| (1) スポーツの魅力伝える生涯学習プログラムの提供 | | | | | | | |
| ①オリンピック等国際大会に関する理解を深める機会の充実 | | | | | | | |
| 1 | オリンピック・パラリンピック教育の推進 | 指導課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 63 |
| 2 | リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会出場選手紹介、PV実施 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 64 |
| 3 | フラッグツアー等冬季オリンピック・パラリンピックの取組み | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 65 |
| 4 | ラグビーワールドカップ2019開催関連イベント | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 66 |
| 5 | 東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019に向けた事前キャンプ地、公認キャンプ地の受入れ | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 67 |
| 6 | 他国スポーツ選手との交流 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 68 |
| ②オリンピック・パラリンピアン等の一流選手やその指導者による講演会の開催 | | | | | | | |
| 1 | Sports for All イベントによるスポーツの振興・啓発 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 69 |
| 2 | ボッチャを知ろう～リオパラリンピックメダリストによる講演と実技体験 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 70 |
| 3 | オリンピック・パラリンピック教育の推進 | 指導課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 71 |
| 4 | 小中学校へのバレーボール等授業支援 | 生涯学習スポーツ課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | 72 |
| ③スポーツを通じた身体、健康、メンタル等に関する学びの機会の提供 | | | | | | | |
| 1 | 運動していない女性のための絶対に効果が出るストレッチ | 生涯学習スポーツ課 | 平成31年3月、仕事、育児、介護で忙しく、スポーツ実施率の低い女性を対象に、場所を選ばず一人で気軽にでき、効果を実感しやすいストレッチのイベントを実施した。講師：中野ジェームズ修一氏。 | ★ | 講師の理論的かつわかりやすい説明や、対象や視点を絞ったことで参加者の評価が高い事業だった。運動習慣の定着化の促進につながったと考えている。 | | 73 |
| 2 | トップトレーナーが極意を伝授！子どものスポーツ活動を支える本物の知識 | 生涯学習スポーツ課 | 令和2年1月、子ども達の心身の健全な発達と確かな競技力向上のため、子どものスポーツ活動を支えている指導者や保護者の方を対象として、子どもの身体メカニズム、ケア、栄養、メンタル、コミュニケーションなどに関するセミナーを開催した。講師：中野ジェームズ修一氏。 | ★ | 指導者、指導者を目指す方、保護者等が参加し、9割の方から「非常にためになった」、「とてもわかりやすかった」との声をいただいた。指導者の技術向上や知識のアップデートにつながった。 | | 74 |
| ④ボランティアをはじめとした大会を支える存在に対する理解を深める講座の開催 | | | | | | | |
| 1 | 大会ボランティア(組織委員会)やおもてなしボランティア(都)と連携した本市ボランティアの仕組みの継続実施 | 企画調整課 | 実行委員会における「ボランティア・市民活動・広報分科会」として、スポーツボランティア「HANDS」、ジュニア特派員、来街者歓迎しおり、ボランティアの樹～わたしのチャレンジ～、外国人おもてなし講座などを実施。また、東京2020大会において東京都の募集する都市ボランティアの募集を支援して190名を武蔵野市からの推薦とした。また、聖火リレーボランティアの募集を行った。 | ◎ | 聖火リレーボランティアの募集を行い、説明会や当日の運営を行う。ボランティアにとっても記憶に残る機会となるよう取り組む。スポーツボランティアHANDSはイベントや障害者スポーツを支え、付加価値を与えるスタッフとして継続的に活躍している。 | | 75 |
| 2 | 心のバリアフリー啓発事業 | 障害者福祉課 | 障害のある方が地域で生活するために必要な支援に関する基礎知識を、地域の方々が学ぶことで、支援する側・される側のバリアを減らし、誰もが暮らしやすい地域を目指して実施。平成23年度より実施。 | ◎ | 毎年市内の小学校や民間事業者、市の職員に対し、啓発事業を実施している。今後も啓発事業などを通じて、障害理解の促進に向けた取り組みを進めていく。 | | 76 |
| ⑤図書館における資料の充実と展示 | | | | | | | |
| 1 | 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた児童用図書の展示 | 図書館 | 平成30年度、令和元年度、東京2020大会を、児童が世界に興味を持つきっかけとするように、期間を分けて世界の国々、日本伝統文化、オリンピックの歴史等を紹介する図書を展示した。 | ◎ | 令和2年度は、オリンピックが開催されなかったため、展示は行わなかった。今後は、令和3年7月19日から12月19日まで、スポーツに関する図書の展示を行う予定。また、オリンピック・パラリンピックの開催時期に、オリンピック・パラリンピックの選手と選手を支える人々に関する本の展示を行う予定。 | | 77 |

2. これまでの取組の実績と評価 参考資料
 (3)オリパラ開催、RWC開催等を見据えた教育委員会の取組

◎実施・実施後継続中
 ○事業の一部を実施・実施後継続中
 ★完了(実施後継続を伴わないもの)
 ■検討・研究中
 ▲未着手

| | | | | | 令和3年4月7日付 照会結果 | | | |
|---|-----------------------------------|--------------|---|----------|--|--|--|----|
| 【第5章】オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビーワールドカップ日本開催等を見据えた教育委員会の取組 | | 所管課 | 平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度) | 進捗 状況 | 実績の評価と今後の取組 | | | |
| 事業名 | | | | | | | | |
| 2 | 中央図書館図書の展示 | 図書館 | 図書館の郷土資料を広報するためのパスファインダーを用い、ホスタウンとしてのルーマニアの資料を展示。 | ◎ | 展示は、市民がルーマニアを知り、オリンピックへの興味を抱きかけとなったと思われる。今後は、武蔵野市と聖火のつながりを紹介する展示を行う予定。 | | | 78 |
| 4 障害者スポーツの推進 | | | | | | | | |
| (1) 障害者がスポーツを楽しめる機会の充実 | | | | | | | | |
| ① 障害者がスポーツを楽しめる機会の充実 | | | | | | | | |
| 1 | スポーツ・野外活動情報誌「Do sports!」における情報提供 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 79 |
| 2 | 「障害者スポーツの手引き」の作成と配布 | 生涯学習スポーツ課 | 平成30年度、障害者スポーツを支える人向けに、利用可能な施設や事業を紹介した「障害者スポーツの手引き」を作成し、関係各所に配布、市HPに掲載した。 | ◎ | 当事者や専門家の意見を聞きながら、参加しやすい環境が整うよう、様々な方法で情報提供をしていく。 | | | 80 |
| 3 | 障害者のためのスポーツ教室、ユニバーサルスポーツ教室の開催 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催事業として、障害者スポーツ教室(例:初心者水泳、ボールエクササイズ、初心者水泳など)や、ユニバーサルスポーツ教室(例:ノルディックウォーキング、水中ウォーキングなど)を開催した。 | ◎ | 通常の教室でも可能な限り障がいのある方を受け入れているが、より参加しやすいよう障がい者スポーツ教室やユニバーサルスポーツ教室を開催できた。参加者からは、運動不足の解消やリフレッシュできたなどの声が聞くことができた。引き続き実施していく。 | | | 81 |
| 4 | ワンデースポーツ「障害者のためのスポーツ広場」の開催 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 武蔵野生涯学習振興事業団主催事業として、予約なしで気軽に利用し、自由に楽しく身体を動かすことができる広場事業を開催した。 | ◎ | 予約なしで気軽に利用し、自由に楽しく身体を動かすことができることから、作業所等からはその日の体調に合わせて参加できると高評価を得ることができた。引き続き実施していく。 | | | 82 |
| ② 障害者スポーツ指導員の養成 | | | | | | | | |
| 1 | 障がい者スポーツ指導員資格取得の奨励・支援、ニュースポーツ研修 | 生涯学習スポーツ課 | スポーツ推進委員協議会の実技研修として子どもから高齢者、障害者まで誰もができるニュースポーツや、パラリンピック競技、ニュースポーツなどの研修会を実施している。また、スポーツ推進委員に初級及び中級障がい者スポーツ指導員資格の取得を奨励している。スポーツ推進委員、市民スポーツデー運営委員を対象とした、障害のある方の困難さや、障害の状況に応じた配慮のポイントなどを理解するための研修を実施した。 | ◎ | スポーツ推進委員の障がい者スポーツ指導員資格の取得の奨励や、実技研修を開催していく。市民スポーツデー運営委員やスポーツボランティアHANDSなど、障害者のスポーツ活動を支えるスタッフを対象とした研修の開催も検討する。 | | | 83 |
| 2 | 障害のある方を支える人のためのユニバーサルスポーツ研修会 | 生涯学習スポーツ課 | 令和元年度、福祉施設スタッフ、家族、スポーツ推進委員など、障害者スポーツを支える側を対象として、障害の種別ごとに配慮する点などを学ぶ座学と実技の研修を実施した。実技では当事者の方をゲストとして招き、受講者とともにスポーツを行った。 | ★ | 全5回中のうち2回が新型コロナウイルス感染症のため中止になったが、障害のある方とのスポーツを通じたコミュニケーションや、工夫をすればスポーツを日常に取り入れることができることを学び、障害者スポーツを普及していくための一助となった。 | | | 84 |
| ③ 障害の有無にかかわらず、共にスポーツを楽しむ機会の創出 | | | | | | | | |
| 1 | 障害者のためのスポーツ教室、ユニバーサルスポーツ教室の開催 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 85 |
| 2 | ワンデースポーツ「障害者のためのスポーツ広場」の開催 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 86 |
| (2) 障害者スポーツの理解促進 | | | | | | | | |
| ① 障害者スポーツ大会の開催 | | | | | | | | |
| 1 | ジャパンパラボッチャ競技大会の誘致 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 87 |
| 2 | ボッチャ東京カップの誘致 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 88 |
| 3 | ボッチャ武蔵野カップの開催 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 89 |
| 4 | 東京都市町村ボッチャ大会の開催 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 90 |
| 5 | 日本シッティングバレーボール選手権大会共催 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 91 |
| ② 障害者スポーツを体験する機会の充実 | | | | | | | | |
| 1 | 市立小中学校パラリンピック教育支援 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 92 |
| 2 | Sports for All イベントによるスポーツの振興・啓発 | 企画調整課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 93 |
| 3 | ボッチャを知ろう～リオパラリンピックメダリストによる講演と実技体験 | 武蔵野生涯学習振興事業団 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 94 |
| 4 | ファミリースポーツフェア | 生涯学習スポーツ課 | 【再掲】 | | 【再掲】 | | | 95 |

2. これまでの取組の実績と評価 参考資料
 (3)オリパラ開催、RWC開催等を見据えた教育委員会の取組

◎実施・実施後継続中
 ○事業の一部を実施・実施後継続中
 ★完了(実施後継続を伴わないもの)
 ■検討・研究中
 ▲未着手

| 令和3年4月7日付 照会結果 | | | | | |
|--|--|---|----------|---|-----|
| 事業名 | 所管課 | 平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度) | 進捗 状況 | 実績の評価と今後の取組 | |
| 【第5章】オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビーワールドカップ日本開催等を見据えた教育委員会の取組 | | | | | |
| ③オリンピック・パラリンピアン等の一流選手やその指導者による講演会の開催(再掲) | | | | | |
| 5 体育施設の改修・整備 | | | | | |
| (1) 総合体育館 | | | | | |
| 総合体育館 | | | | | |
| 1 | 総合体育館メインアリーナ、サブアリーナの天井改修とこれに伴う整備 | 生涯学習スポーツ課 武蔵野総合体育館のメイン・サブアリーナの特定天井の改修及び、それに付随して照明のLED化や障害者観覧席のサイン表示と安全対策、トイレの洋式便器化などの改修を実施した。 | ★ | 今後は総合体育館の給排水管などの保全工事とそれにあわせて現代に即した機能改善を図る工事を実施するため、計画的に進めていく。 | 96 |
| 2 | 障害者スポーツの振興支援及び障害者の利便性向上を目的とした施設整備 | 生涯学習スポーツ課 武蔵野総合体育館のメイン・サブアリーナの特定天井の改修に付随して照明のLED化や、障害者観覧席の設置・サイン表示・安全対策、トイレの洋式便器化などの改修を実施した。 | ◎ | 引き続き、障害者スポーツの振興支援及び障害者の利便性向上を目的とした施設整備を進める。 | 97 |
| 3 | 総合体育館等老朽化調査 | 生涯学習スポーツ課 武蔵野総合体育館と温水プールは竣工30年以上が経ち劣化が進んでいるため、長寿命化を目的とした大規模な工事を見据えて施設や設備の老朽化に関する調査を令和元年度に実施した。 | ★ | 今後は総合体育館の給排水管などの保全工事とそれにあわせて現代に即した機能改善を図る工事を実施するため、計画的に進めていく。 | 98 |
| ②陸上競技場 | | | | | |
| 1 | 陸上競技場及び付随施設の整備・改善 | 生涯学習スポーツ課 武蔵野陸上競技場のスタンド下等の選手更衣室や医務室等の設置、トイレの洋式化など機能改善を目的とした工事を実施した。芝の一部張替え及びラグビーゴールの改修を行い、芝の耐久性及び競技環境の向上を図った。また、陸上競技場第3種公認のための工事を実施し、競技大会開催にあたって必要な改修・備品の購入を実施した。 | ★ | 総合体育館の大規模改修工事に合わせて必要な改修を行うとともに、第3種公認検定時には適切に改修・備品購入を行い、引き続き魅力ある大会・イベント等の誘致や市民利用に供することができるよう、整備していく。 | 99 |
| 2 | 障害者スポーツの振興支援及び障害者の利便性向上を目的とした施設整備 | 生涯学習スポーツ課 車椅子用観客席の設置・サイン表示・安全対策、トイレの洋式化、多目的更衣室・トイレ・授乳スペースの設置などを行った。 | ★ | 引き続き、障害者スポーツの振興支援及び障害者の利便性向上を目的として施設整備を進める。 | 100 |
| ③屋内プール、プール管理棟、屋外プール | | | | | |
| 1 | 屋内プール、プール管理棟、屋外プールの整備 | 生涯学習スポーツ課 温水プール・管理棟の天井等内装改修、トップライトガラス交換、非常放送設備更新工事、空調機更新工事などを行った。平成31年度には屋外プールの井戸が劣化により井水の使用ができなくなった。 | ◎ | 必要な整備を行いながら、スポーツ振興計画の改定時にはプールの再整備あり方について検討する。 | 101 |
| ④旧桜堤小学校跡地 | | | | | |
| 1 | 旧桜堤小学校跡地の暫定広場の整備 | 生涯学習スポーツ課 校庭としての児童の利用を最優先としながら、地域の方々への開放や、部活動での利用などの可能性、桜野小学校の第2校庭的な使用も含めた暫定的な運動広場としての整備も研究していく。 | ◎ | 桜野小学校の第2校庭として活用したのち、武蔵境園におけるスポーツ広場として整備するが、その時期については隣接する公共施設の整備状況を勘案したうえで検討する。 | 102 |
| ⑤その他の主な施設 | | | | | |
| 1 | 軟式野球場の整備 | 生涯学習スポーツ課 外野の防球フェンスを高くするための改修工事を行った。 | ◎ | 近い将来大規模なグラウンド整備や防球フェンスの改修が必要になると見込まれるため、劣化状況に注視し、予防保全的な維持管理を行いながら、計画的な改修を行う。 | 103 |
| 2 | テニスコートの整備 | 生涯学習スポーツ課 人工芝の補修など、必要な維持修繕を行った。 | ◎ | 維持管理を行いながら、計画的に人工芝の全面張替えを行う。 | 104 |
| 3 | 緑町スポーツ広場の整備 | 生涯学習スポーツ課 人工芝の補修など、必要な維持修繕を行った。 | ◎ | 維持管理を行いながら、計画的に人工芝の全面張替えを行う。 | 105 |
| 4 | ストリートスポーツ広場の整備 | 生涯学習スポーツ課 滑走路面の舗装の改修工事を行った。 | ◎ | 現状の性能を維持できるよう、必要な維持修繕を行う。 | 106 |
| 5 | その他 | 生涯学習スポーツ課 都立中央公園スポーツ広場のスプリンクラーの改修工事を行った。 | ◎ | 現状の性能を維持できるよう、必要な維持修繕を行う。 | 107 |
| 6 他部門との連携 | | | | | |
| (1) 他の分野との連携、文化施策との連動によるスポーツ施策の推進 | | | | | |
| 国や都の文化の方針やビジョン、組織委員会が定める「アクション&レガシープラン」などとの整合性の取れたスポーツ施策の推進と文化施策との連動 | | | | | |
| 1 | 共生社会ホストタウンへの登録と共生社会の実現を目指した取り組み | 企画調整課 地における共生社会の実現に向けた取り組みを加速し、オリンピック・パラリンピック終了後も、レガシーにつなげていくものとして、ルーマニアのパラリンピアンを招いた強化合宿を支援したりルーマニアの卓球・柔道のパラリンピック候補選手を招いた。スポーツを通じた交流だけでなく、ルーマニア文化を伝える事業を実施した。これらの活動により、本市が共生社会ホストタウンに登録された。 | | 共生社会の実現を目指した取り組みを行っていく。 | 108 |
| 「東京オリンピック・パラリンピック等国際大会関連事業庁内推進会議」との連携によるスポーツ施策の推進 | | | | | |
| 1 | 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた武蔵野市実行委員会 | 企画調整課 実行委員会では、特に重点的に進めたいものとして「ボランティア・市民活動・広報分科会」「スポーツ・健康分科会」「文化・交流分科会」「観光・産業・交通(輸送)分科会」の4つの分科会を設置し、各所属団体での活動なども共有しながら、市として統一感のある取組みを進めてきた。令和元年度には聖火リレー分科会を立ち上げた。参加団体82団体、委員数は102名(令和2年4月現在)。年に1～2回の総会を行い、分科会は適宜開催を行い、各種事業を実施。 | ◎ | ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会へ向けた取り組みを市民と一体となって検討し実施することが出来ている。多種多様な分野で活躍している方々のご意見を参考に機運を盛り上げることができた。東京2020大会期間では、これまでの取組みの集大成として市民にとって記憶に残るものを作り上げていきたい。 | 109 |

2. これまでの取組の実績と評価 参考資料
 (3)オリパラ開催、RWC開催等を見据えた教育委員会の取組

◎実施・実施後継続中
 ○事業の一部を実施・実施後継続中
 ★完了(実施後継続を伴わないもの)
 ■検討・研究中
 ▲未着手

| 【第5章】オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビーワールドカップ日本開催等を見据えた教育委員会の取組 | | 所管課 | 平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度) | 進捗状況 | 実績の評価と今後の取組 |
|--|-------------------------------|-----------|--|------|---|
| 令和3年4月7日付 照会結果 | | | | | |
| 友好都市であるブラショフ市のあるルーマニア国とスポーツ・文化交流を行い、共生社会の実現、グローバル化の推進、地域活性化、観光推進等の実施 | | | | | |
| 1 | ルーマニアホストタウン事業推進実行委員会設置 | 多文化共生・交流課 | ホストタウン事業の更なる啓発と事業推進のために設置した武蔵野市ルーマニアホストタウン事業推進実行委員会を令和元年8月20日(火)に開催した。また、継続してルーマニアパラアスリートを応援するための募金活動を実施した。 | ◎ | 平成28年度から4回の実行委員会を開催し、ホストタウン事業の啓発等、事業を推進した。募金活動の実績は160万円超であり、ルーマニアパラアスリートを招聘した。東京2020大会終了後、総括をし、レガシー等について協議する。 |
| 2 | ルーマニアからの留学生との交流 | 多文化共生・交流課 | 武蔵野ブラショフ市民の会が、ルーマニア日本武蔵野センターを通じて日本語・日本文化学習者の中から応募者1名を選考の上、日本語・日本文化研修のため、平成28年度から毎年招へいしている。この事業を平成29年度から市が共催。市内等にてホームステイをし、市や武蔵野ブラショフ市民の会等の事業に参加。市民との交流及び効果的な啓発を行った。 | ◎ | 市民レベルによる交流の実現に資する事業となった。東京2020大会終了に伴い、市民の会による留学生の受入れ中止が見込まれるが、ルーマニアに設置している日本武蔵野センターのあり方の見直しも踏まえ、青少年等の相互派遣の可能性等を検討していく。 |
| 3 | 桜まつり等での周知 | 多文化共生・交流課 | 武蔵野桜まつりにおいてルーマニアホストタウン展示ブース設置及び駐日ルーマニア大使代理を招待し、来場者にホストタウンを効果的にPRした。また、むさしの青空市やMIAまつり等、多くのイベントでルーマニアホストタウン展示ブースを設置し、市民の方へ周知をした。 | ★ | 効果的なPRを行うことができた。 |
| 4 | リオ大会と連動した物産展 | 多文化共生・交流課 | 平成28年度(リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピック競技大会が実施された2016年)に、武蔵野プレイス1階ギャラリー、市役所1階ロビーにおいてルーマニアパネル展を実施し、東急百貨店吉祥寺支店においてルーマニアフェアを実施した。啓発用パネルの展示、物産の販売を行い、開会式には駐日ルーマニア大使も出席し、大使の俳句パネルを展示した。吉祥寺駅舎内通路においてルーマニアパネル展及び物産品の販売を実施し、リオ大会と連動した効果的な啓発を行った。 | ★ | ホストタウン事業の初期に行ったイベントであり、その後の事業を進めるうえでの基盤となった。 |
| 5 | ルーマニアより交響楽団の招聘 | 多文化共生・交流課 | 平成29年、ルーマニアとの交流のきっかけとなったブラショフ・フィルハーモニー交響楽団(55名)を招聘し、260名の市民合唱団と共演した。市役所表敬訪問、武蔵野市公演(合唱団共演)、市民交流、武蔵野市公演(5市共同事業子ども体験塾)、武蔵野北高等学校公演、成蹊大学公演を行った。翌年、交響楽団と共演した合唱団員など市民による文化交流市民団29名がルーマニアブラショフ市を訪問した。ブラショフ市役所表敬訪問をはじめ、参加市民による交響楽団との再共演及び現地での日本文化発信事業を実施した。現地にブラショフ市と協同で設置する日本武蔵野センター生徒との交流会等実施し、現地に日本及び武蔵野市との交流・啓発を実施した。 | ★ | 多くの市民が参加したことにより、市内外のホストタウン周知に貢献した。市民がブラショフ市を訪問したこと、現地でのホストタウン事業の認知度を高め、ホストタウンの定義である交流をしながら日本文化を伝えることも実現できた。当市がブラショフ市と交流をするきっかけである交響楽団を交えた交流であったことが意義深い。 |
| 6 | ルーマニア・ブラショフ市からの文化交流市民団の招聘 | 多文化共生・交流課 | 令和元年度、ルーマニア・ブラショフ市から文化交流市民団の招聘を行った。5名からなる交流団は、ホストタウンのPRを行う他、市内学校訪問やイベントへの参加、ホームステイによる生活体験を通して、お互いの文化理解を深める文化相互交流を実施した。 | ★ | 招聘した市民団はその後ホストタウン事業のPRに協力しており、一時の交流だけでなくその後の事業啓発に役立った。今後は友好都市同士の市民交流を検討したい。 |
| 7 | ルーマニアを知る事業の実施(文化) | 多文化共生・交流課 | 令和元年度、令和2年度、ホストタウン事業として、ルーマニアの刺しゅうに関するイベント、ハロウィンイベント・焼き物とイースターエッグ展など、文化を通じルーマニアを知るイベントを多数実施した。 | ★ | 会場に訪れた市民からは好評を得たが、「ルーマニアの展示」としてとらえられることが多く、ホストタウン事業のアピールとしてはもう一工夫が必要であった。 |
| 8 | ルーマニアホストタウンムサシノ情報発信特設ウェブサイト開設 | 多文化共生・交流課 | 令和2年10月、ホストタウン情報発信のため特設ページを新規に開設した。ルーマニアから武蔵野市民へ、ゆかりのある方々の生の声を届けることで、市民に親しみと興味を持ってもらえるよう、動画に力を入れた。ルーマニアパラリンピック関係者やメダリストからも動画を寄せていただいた。ホストタウンの取組みにとどまらず、文化・歴史・言語・観光スポットなどさまざまな情報をテーマごとにまとめ、わかりやすく紹介した。 | ◎ | 文章や写真に加えて、メダリスト等から動画を提供してもらうことで幅広い情報を、世界に向けてわかりやすく発信できた。東京2020大会の終了までは更新を継続する。 |
| 9 | ルーマニアアートイベントの実施 | 多文化共生・交流課 | 令和元年度、ホストタウン事業として、ルーマニアの文化、特にアートに焦点を当てたイベントを連続して実施した。9月28日(土)には境南ふれあい広場公園にて、ルーマニアの映像作品を切り口に、より多くの市民にルーマニアやホストタウン事業に興味を持ってもらうことを目的として、ルーマニア野外映像祭を開催した。野外に設置したスクリーンの映像を通じて、多くの方に効果的にルーマニアの啓発ができた。1月～2月にかけてはルーマニアのアーティストを本市に招聘し、作品の滞在制作、展示発表会を行い、より多くの市民にルーマニアの文化を啓発した。 | ★ | アートに照準を合わせたことで他の事業とは違った層にアピールをできた。 |
| 10 | キャラクター・ロゴを活用した啓発活動 | 多文化共生・交流課 | 効果的なホストタウン啓発を実施するため、アニメキャラクター及びロゴを活用したポスターにストーリー性を持たせ、三部作として制作し、春、夏、冬を通じた展開を図ると共に啓発用グッズを多種制作し、効果的な啓発と事業推進を実施した。キャラクターがTwitterを利用している設定で武蔵野市やルーマニアのイベントなどを紹介した。 | ◎ | ホストタウン事業の啓発に大いに役立っている。東京2020大会の終了後のルーマニアとの交流等での活用を検討する。 |